

～ 真理の道・誠の道・平和の道 ～

東 雲



平戸市立度島小中学校

学校だより No.34

令和7年3月17日(月)

文責：校長 園田栄作

感動の心のこもった卒業式 ～ 思いをつなぐ『送辞』『答辞』 ～

『送辞』

校庭の桜の蕾も膨らみ、目の前に広がる度島の海は穏やかな表情を見せ、うららかな春の訪れを感じる佳き日となりました。度島中学校を卒業される七名の先輩方、御卒業誠におめでとうございます。この壇上に立った今、先輩方とともに過ごした日々の思い出が、昨日のこのように蘇ってきます。

「Impossible is Nothing まだここにしか無い発想で自立の風を吹かせよう」のスピーチのもと、全校生徒十九名で力を合わせ、様々な行事に取り組んできました。その先頭にはいつも七名の優しい先輩方の姿がありました。

小中合同で行った運動会。楽しいことはもちろんですが、各団をまとめるのに、苦労されることも少なかつたと思います。そんな中でもリーダーとして、後輩への思いやりを忘れず、最後まで一生懸命行動する姿は、私達に様々なことを教えてくださいました。目標に向かって努力を重ねた部活動。平戸市中総体卓球競技では、団体優勝。県大会でもその実力を大いに発揮されました。「度島中ここにあり」と、その存在を十分にアピールするとともに、「努力は実る」ということを身をもって教えてくださいました。少しでも良いものを作り上げようと、工夫を凝らした学習発表会。中学生全員で心を一つに取り組んだ合唱とボディーパーカッション。そして、ユーモアを交えて伝えた、職場体験学習の劇「大きなかぶ」。声の大きさや動作の工夫など「恥ずかしさ」を超え、見てくださる方々に「楽しんでほしい」という気持ちひしひしと伝わりました。休み時間も練習を重ね、本番で披露した一人ひとりの演技を今でも忘れることができません。

私たちは、幼いころからずっと、先輩方の後を追いかけてきました。私たちにとって先輩方は、とても優しく、そこにいてだけで安心感を与えてくださる存在でした。休み時間や放課後、部活動の帰り道など、先輩方と過ごした日常の何気ない一コマ一コマを、今ではとても愛おしいものに感じています。別れを間近に控えた今、「尊敬」と「感謝」の念でいっぱいです。今まで本当にありがとうございました。

それぞれの未来に向かい、勇気をもって踏み出していく先輩方だからこそ、それぞれが歩んでいく道の中で、どんなに厳しくても、どんなに逆境に立たされても、きっとそれらを乗り越え「明るい未来」へ進んでいけると信じています。私たち在校生は、いつまでも先輩方を応援しています。

名残は尽きませんが、卒業される先輩方七名の前途が明るく希望に満ち溢れるものとなることを切に願い、送辞といたします。



令和七年三月十四日

在校生代表

〇〇 〇〇

『答辞』

冷たい風の中にも柔らかな日差しが注ぎ、春の訪れを感じさせる佳き日となりました。

本日は、私たち卒業生のために、盛大な卒業式を挙行してくださり、誠にありがとうございます。また、お忙しい中ご出席いただきました来賓並びに地域の皆様、心を込めて準備してくださった校長先生をはじめ諸先生方、そして在校生の皆さん、卒業生一同心より感謝申し上げます。

振り返ると本当にあっという間で、入学式から約三年の月日が流れました。喜びや成長を実感することはもちろん、うまくいかずに悩んだり、悔しい思いをしたりすることも少なくありませんでした。この壇上に立った今、そんな私の三年間が、昨日のことのように蘇ってきます。

小中合同で一致団結した運動会。三年生が主導し、生徒全員で競技種目を考え、運動会の計画と運営を行いました。最初は自分のことで精一杯だった私達でしたが、一生懸命ついてきてくれる小中学校の後輩たちを引っ張っていくことができたよう、精一杯努力しました。失敗することやうまくいかないこともありましたが、この経験を通して、**周囲への配慮や思いやりの大切さを学ぶことができました。**「闘志」と「獅子奮迅」の団旗が空になびく姿を今でもよく覚えています。どうすればうまくなれるか、どうすれば強くなれるかを自分たちで考え、工夫と努力を重ねた部活動。最上級生を中心としてそれまでの練習内容や雰囲気をもう一段レベルアップさせようと様々な改革を行いました。その結果、**卓球の技術はもちろん、挨拶や返事、整理整頓など、度島中学校の良き伝統を後輩につなげることができました。**炎天下の中、練習を重ねた汗を流さずに駅伝大会。悔しさを乗り越えられず、納得のいく走りができなかったこともありましたが、大会本番では、多くのメンバーが自己ベストを更新する走りを見せ、一人では叶えることのできない目標も、みんなで力を合わせることで達成できるということを実感しました。見て下さる方々に喜んでもらえるよう、工夫を凝らした学習発表会。発表の練習や動画の撮影、歌の練習などに時間はかかりましたが、主体的に計画を立て、相手の目線に立つて物事を考えることができて、発表を終えた後の達成感や感動は格別なものがありました。後輩たちの発表もユーモアを交えた素晴らしいものとなり、**恥ずかしがらずに自分を表現し、仲間と切磋琢磨しながら物事に取り組む大切さを学ぶことができました。**

朝登校すると、明るい笑顔で挨拶してくれる友達。みんなで野球やバレーやサッカーをして遊んだ昼休み。時には小学生の後輩たちと一緒に校庭を走り回りました。きつい時にもお互いに声を掛け合いながら頑張った部活動。時には遠回りをして大笑いしながら帰った帰り道。その姿を温かく見守ってくださる地域の方々。その時には気づかない「目の前にある幸せ」を、この壇上で実感するとともに、私たちを支えてくださったすべての方々への感謝の気持ちがいっぱいです。「先輩」といわれるのが恥ずかしいくらい、「友人」でもあり、「仲間」でもあった在校生の皆さん。幼いころから共に過ごし、一緒にいるのが「当たり前」でしたが、別れを前にして、その「当たり前」のありがたさを実感しています。今日、私達から皆さんへ、**伝統ある度島中学校の襟を渡します。**度島中学校が卒業後にも「誇れる母校」であり続けるよう、さらに発展させてほしいと思います。今までずっといることが当たり前だった同級生のみならず、おなかが痛くなるくらい笑いあったこと。気持ちがすれ違いぶつかり合ったこと。思いが伝わらず涙したこと。楽しいこともつらいことも七人だから分かち合い、ここまで来ることができました。私たち七人は、今日を境にそれぞれの目標に向かって、別々の道を歩み始めますが、どんなに離れていても私たちはずっと友達です。今まで本当にありがとうございました。十五年間、私たちを一番近くで見守ってくれた家族の皆さん。普段は照れくさくてなかなか言えませんが、今日はこの場をお借りして言いたいと思います。本当はよくないとわかって見守ってくれた家族の皆さん。冷たく当たってしまったことがありませんが、今日はこの場を

つてくれていて。冷静になればすぐにわかるのに、素直になれないこともあります。それでも今日まで、たくさんの愛情を注ぎ、育ててくれたからこそ今の自分があります。今まで本当にありがとうございました。将来必ず、親孝行ができるような立派な人間になります。どうかこれからも、見守っていてください。

「夢をつかむということは一気にはできません。小さなことを積み重ねることで、いつの日か信じられないような力を出せるようになって信じています。」これは、日米両国で、プロ野球選手として活躍したイチロー選手の言葉です。

私たち卒業生も、度島中学校の卒業生としての誇りを持ち、自分を支えてくれる人への感謝の気持ちを忘れず、人を思いやり、自分と自分に関わるすべての人の幸せを追求し、どんな時も「自己ベストの努力」を積み重ねながら、歩いていくことを誓います。

令和七年三月十四日

卒業生代表 ○○○○

